

江田島市観光振興ビジョン（案）に対するご意見と市の考え方

※いただいたご意見については、趣旨を損なわない範囲で加工しています。

No.	ご意見	市の考え方（対応）
1	長瀬海岸をもっと活用してほしい。（マリンスポーツ、レジャー）	具体的施策「高付加価値化・多言語化」の中で、「島、瀬戸内等をテーマとした、江田島市ならではの体験・交流コンテンツの開発」を想定しています。観光客に楽しんでもらえる、より価値の高い資源活用に取り組んでいきます。
2	海の遊びをもっと増やしてほしい。（レンタルボート、つり船）	
3	クルーズ船やヨットのつくる港の整備（海の駅、入鹿、長瀬、長浜）	具体的施策「広域での受入態勢強化」の中で、「船舶等を活用した近隣連携の強化」を想定しています。港を活用した観光取組を推進します。
4	江田島湾をもっと活用してほしい。	
5	島民（中年男性）の集まれる遊べる場所がほしい。	具体的施策「受入環境の整備」の中で、観光拠点・観光施設の充実を図っていきます。その際には、観光客のみならず、市内の皆さまも集まりやすい受入環境を整えていきます。
6	客単価を上げるため、ツアー、ガイドの育成に力を入れてはどうか。	具体的施策「観光に関わる人材発掘・育成」の中で、「観光ガイドやプログラム提供者の養成」を想定しています。人材の育成とともに、客単価の増加も目指します。
7	江田島内にある宿泊施設、キャンプ場のすべてが載っているパンフレットの作成を希望する。	具体的施策「観光プロモーションの強化」の中で、「市観光ツールの充実」を想定しています。必要に応じたパンフレット等のツールを作成し、活用していきます。
8	「えたじまーれ」で水産にも力を入れてほしい。	具体的施策「受入環境の整備」の中で、「観光拠点となる特産品販売所の整備・充実」を想定しています。いただいたご意見を踏まえ、加工品を中心とした水産物についても充実を図っていきます。
9	観光事業者への支援、PR、パンフレット作成に力を入れては。	観光事業者への支援については、具体的施策「観光に関わる人材発掘・育成」の中で、「観光関連事業に関する起業及び事業拡大支援」、「観光関連の人材募集支援」などを想定するほか、「観光対応マニュアルの作成」や「観光従事者研修の実施」など、観光従事者への育成に関する支援、また、具体的施策「受入環境の整備」の中で、観光事業者の観光施設等のリニューアル支援を想定しています。 合わせて、具体的施策「観光プロモーションの強化」の中で、観光事業者のPRや、パンフレットの作成などを行っていくことを想定しています。

10	えたじまものがたり博覧会に力を入れては。	具体的施策「魅力ある観光コンテンツの造成」の中に掲げたとおり、「えたじまものがたり博覧会の充実」に取り組んでいきます。
11	県内、国内、海外に営業を。	観光施策を推進するうえで、広島県観光連盟や旅行エージェント等との連携は継続していきます。今後はインバウンドの拡大も想定しながら、県内だけでなく、より広い視点での誘客を図っていきます。
12	「江田島市観光振興計画策定支援業務」の仕様書において、達成目標「令和 16 年度までに交流人口（総観光客数）100 万人を目指す。」とした前期 5 か年計画だったはずが、なぜ 65 万人（総合計画審議会で観光振興計画から 90 万人の原案を最終案では 70 万人に修正したと説明がありました。）という低い目標にしたのですか。	本計画の策定検討委員会において検討を重ね、令和 7 年度から 11 年度までの 5 年間を前期とし、まずは総観光客数をコロナ禍前の水準（平成 29 年度：63.3 万人）まで戻すことを目標としました。
13	大和ミュージアムがオープンした年や愛知万博があった年は観光客が多いです。来年度は大和ミュージアムがリニューアルのため閉館している一方で、大阪・関西万博が開催されます。戦後 80 周年、昭和 100 年など節目には何か取り組むべきではないですか。	戦後 80 周年（2025）、昭和 100 年（2025）などの節目の取組は、具体的施策「魅力ある観光コンテンツの造成」の中で、「既存イベントの観光活用及び新規観光イベントの企画支援」などを想定しており、関係部署等と連携しながら総合的に検討していきます。
14	能美海上ロッジ・シーサイド温泉のうみが江田島荘に変わって、従前の温泉利用者 10 万人が 2 万人に劇的に変化しています。カキ祭など冬場の日帰りイベントで交流人口が増えています。 江田島市は、宿泊による観光地というより日帰りできる観光地との認識で計画を作っていただきたい。県外のコンサルタントに委託する際には江田島の特色を適切に情報提供していただきたい。 温泉利用者の激減やイベント中止による交流人口の減少も心配されますが、物販・飲食の伸びが著しく、この流れを止めないでほしい。創業塾卒業生への起業支援の補助金を補正予算で拡張してきたものを今後は予算ベースでおさめるとの議会答弁を聞いたが、個別の課題があるにしても、結果として交流人口の増加に役立っている可能性があるため、観光ビジョンで「新たな店舗の出現により、物販飲食による交流人口の伸びが著しい」との記述を入れてほしい。	観光を「産業」として育成するには、今、低い状況にある観光客数と観光消費額の向上を図る必要があります。また、市内に宿泊施設が増えてきた状況です。 よって、本ビジョンでは、観光客数と観光消費額の増加、そして最も客単価の高い宿泊の数を増加させることを目標とし、それぞれの数値目標を設定しています。 また、ご指摘のとおり、新たな店舗の出現は、本市としても交流人口増加へ大きな効果があるものと考えています。 ただし、「新たな店舗の出現により、物販飲食による交流人口の伸びが著しい」との記述は、正確な実証データが取れていない状況のため、本ビジョンでは掲載しません。 起業支援については、具体的施策「観光に関わる人材発掘・育成」の中で、観光関連事業に関する起業及び事業拡大への支援を継続実施し、魅力的な観光関連事業者の増加を目指します。
15	観光の地域資源の位置やゾーニングを	観光ガイドマップを追加しました。

	示すため、旧総合計画の土地利用構想図のようなものを掲載してほしい。	
16	今回のビジョンで新しい行動提案・事業提案として「あと一か所」立ち寄るところを増やすという取り組み姿勢が示されているが、同一人物のダブル・トリプルカウントによる交流人口の増よりは、希望としては、市外・県外からの来訪者が増えてくれることを期待したい。具体的には、第1術科学校と青少年交流の家の利用者がコロナ前の数に戻れば、目標数値は達成できると考える。	「あと一か所」立ち寄るところを増やす意図は、客数の増加以上に、消費額（客単価）の増加を目的としたところが大きいものです。 本取組と合わせて、第1術科学校や青少年交流の家とも引き続き連携を図り、本市観光客数がコロナ前の水準に戻り、さらには上回っていくような総合的な取組を進めていきます。
17	かつて、貝堀り・海水浴・みかん狩りといった広島市民の民族大移動のようにフェリーで企業の組合員さんなどが押し寄せてきた観光スタイルを考える必要があるのではないか。	具体的施策「団体旅行の誘致」の中で、「旅行エージェントと連携した団体旅行の企画」を想定しており、海や山などの豊富な自然環境等の本市の魅力を活かしながら、団体で本市を訪れる観光客誘致に力を入れます。
18	「一歩」のグループ活動の成果と課題の整理とともになぜ廃止するのかの理由を明記していただきたい。印象としては行政計画であるにもかかわらず、定期的な会合を行政が呼びかけていなかったように思う一方で、観光に関する市長答弁は「一歩」がよく使われていたと思う。	市や市観光協会、市商工会、海上自衛隊、観光関連事業者が連携し観光振興に取り組むために設立されたものが、江田島市観光戦略チーム「一歩」です。現在は、その主たる構成団体の連携が確立され、市観光協会を中心として同様な動きが可能な体制が構築できたため、団体としては解散することとしました。ただし、観光振興に取り組む関係者が連携するための役割は、観光協会（及び市）が引き継ぎます。
19	本ビジョンにおいて、今後の観光を推進していくのは行政ではなく、一般社団法人の観光協会が主体となって推進するように書いてあるが、運営委託など事業を実行することはあっても、物販・飲食業を推進して交流人口を増やすような取り組みはできないと思うので、行政・商工会・観光協会の役割分担を詳細に整理していただくのが良いと思う。	観光協会を主体としながらも、市を旗振り役とし、商工会、市内関係事業者、県観光連盟、近隣自治体等と連携を図り、地域が一体となって効果的な観光施策を推進していきます。 役割分担については、第5章「推進体制」中の図に記載のとおりです。
20	バイクによるツーリングやドライブも交流人口に含めるよう、交通量の増減についても把握してはどうか。半島の先端であるため、通過交通はなく、平日と土日の交通量比較から交流人口を推計することができるのではないか。	本ビジョンでは、広島県のガイドラインに沿って観光客数の把握方法として主に宿泊統計や観光施設の入込客数を用いていますが、交通量データを活用することで、釣り客やツーリング客なども含めたより包括的なデータ収集が可能となると思われます。今後の取組の参考とさせていただきます。